

分野：⑫消費生活・衣食住

(食品ロスを考える)

環境アドバイザー

関川忠彦

対象 行田市立南小学校 5年 1、2組 (45人)

所要時間  2時間

場所 校舎内 理科室 4F

実施時期 令和3年9月6日

概要

- 1 「食品ロス」の言葉は聞くが、学習の機会も少なくよくわからない。
- 2 日本の各家庭などの状況から食品ロスを実感しにくいので、世界の話、実態から共通認識を持たせ、気づいたことで未来の対応を考える。
- 3 知らないことを知った喜びと考えることの楽しさを習得させたい。

プログラムの ねらい

総合の時間に、他の教科と関連する食べ物・食品ロスについて、知って考える。日本と世界の問題、特に食糧自給率の低さと食品ロスの多さを知り、飢餓に苦しんでいる人が世界に多数いることから、私たちができることを考える。学校の食品ロスの指導計画に役立つ資料・情報（テキスト内容等）を提供する。

プログラムの内容

1 イン트로 (5分)

「今日は何の日」クイズから入り、10月は「食品ロス削減月間」を知る。

2 本題 (35分)

- 2.1 日本人の昔と今の食生活の変化、食材を多量に輸入する日本、食料自給率などを知る。
- 2.2 日本の低い自給率を知り、もし輸入できなくなった時の食事・献立を知り感じる。
- 2.3 きゅうりなど旬の食べ物が今は一年中食べられる日本。食品不足の心配がないかを考える。
- 2.4 食べ物がゴミとしてたくさん捨てられている日本の実態を知る。その重量の大きさも。
- 2.5 世界で約8億人ものが、食べ物と栄養不足の悪循環で飢餓状態なのに多量の食料が捨てられている！世界の飢餓の実態写真を見てそのひどさから**食料の大切さ**を知る。
- 2.6 日本の家庭からの食品ロスの内容を知り、埼玉県や行田市の動きも知って、できる事から行動をする。食品ロスを出さないライフスタイル（買い物、調理、外食などで）をするには。
- 2.7 簡単な実践クイズ「買い物の時、皆さんはどうする？」で、できる事から食品ロスの削減を開始しよう。買い物や調理をすることで食品ロスの削減を体験しよう。

3 まとめ (5分)

- 3.1 世界で食料不足で苦しんでいる人がいるのに多量の食料がロスに→世界の实態を知る。
- 3.2 私たちはできることからやる。食べ物のムダや偏食はしない、買い物や調理をしてみる。
- 3.3 子供の時の一日3食と特に朝食はなぜ大切かを知る。

